

ヤマセを逆手にとった「野辺地葉つきこかぶ」の産地化

～品種の組み合わせによる高品質生産～

【概要】

ヤマセによる夏季冷涼な気候を活かせる品目として「葉つきこかぶ」の栽培に取り組み、長期安定出荷体制の整備や産地間競争に打ち勝つための販売活動強化などによりブランド化を推進、平成27年には販売額約8.5億円を達成した。

【対象名】

ゆうき青森農業協同組合
野菜振興会こかぶ部会
(40名)

【背景・課題】

- ・野辺地町は、気象条件が厳しく、耕地面積が少ないことから、高収益で農地の高度利用が図れる作物への転換が必要であった。品目選定の過程で冷涼な気候を好むこかぶに活路を見出し産地化を進めた。
- ・産地間競争に打ち勝つため、高品質な葉つきこかぶの生産に加え販売活動強化によるブランド化を進めた結果、高い評価を得てきたが、近年の極端な気象変動(異常高温)により一時的な外観品質低下(葉の萎れ・黄化)が発生するようになった。



部会員・市場関係者が参加した現地検討会

【取組の内容】

- ・ブランド化のため、平成24年に「野辺地葉つきこかぶ」として地域団体商標登録を取得した。
- ・平成28年青森県生産振興総合対策事業(強い農業づくり交付金)を活用し、従来施設より能力が強化された真空予冷装置、包装機械を備えた野菜集出荷施設を整備したことで、高度な品質管理と市場ニーズに対応した出荷が可能となった。
- ・既存品種「玉里」を対照に夏場の高温期対策として、7月下旬～8月収穫期の作型において、「玉里3号」を導入し、品種を全面的に切り替えることで、品質・収量の安定化に取り組んでいる。
- ・市場関係者からは、「これまで発生していた茎葉の萎れや黄化が減った。」との評価が得られている。

こかぶ取扱実績の推移

年次	面積 (ha)	取扱量 (t)	取扱額 (億円)
H27	86.0	4,380	8.5
H28	83.8	4,246	7.1
H29	84.0	3,979	6.8
H30	80.8	3,719	7.2
R元	79.9	3,817	6.9

【成果(収益性アップ)】

- ・生産・出荷体制の強化により、収益性向上が図られているほか、地域雇用の創出にも貢献している。